

メディカル英語 No.9

医学英語の症例報告（定型表現編）を読む —— Case Reportの構造と定型表現

 導入

症例報告を書く・読む際に使う定型表現には決まったパターンがあります。これを身につけると、読解速度が格段に上がります。

 講義概要

症例報告でよく使われる100の定型表現を「提示・経過・診断・治療・考察」のフェーズ別に整理します。時制の使い分け（過去形 vs 現在形）・能動/受動の選択まで扱います。

 授業目標（この授業が終わったらできること）

- 症例提示フェーズの定型表現（presented with・was referred for・complained of）を使いこなせる
- 診断フェーズの表現（was diagnosed with・laboratory findings revealed・imaging showed）を読み取れる
- 考察フェーズの表現（to our knowledge・this case highlights・we report a rare case of）を理解できる

 授業構成

1. 提示フェーズ：主訴・現病歴の定型表現
2. 検査・診断フェーズの表現パターン
3. 治療・経過フェーズの表現パターン
4. 考察フェーズ：類似症例との比較表現

 課題

「To our knowledge, this is the first reported case of X presenting with Y in the absence of Z. This case highlights the importance of considering X in the differential diagnosis of patients with Y.」この考察文の(1)構造、(2)to our knowledge の意味と役割、(3)highlights the importance of の使い方を説明せよ。